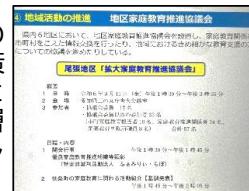


令和7年度

公民館主事等社会教育担当者研修会

第1日目	施策の方向性と理解・公民館の講座運営と公民館が果たす役割	
社会教育基礎A	我が国の社会教育の今日的動向	
行政説明Ⅰ	文部科学省総合教育政策局地域学習推進課地域学習推進係長 (併) 地域振興係長 萱津 大知 氏	
<p>公民館を中心とした社会教育の現状と、今後の方向性について御講義いただきました。公民館は地域住民の学びと交流の場として重要な役割を担っており、デジタル技術の活用や社会教育士の配置促進によって機能強化が図られていることや、第4期教育振興基本計画において、持続可能な社会の創り手の育成やウェルビーイングの向上が掲げられ、社会教育人材の養成・活躍促進が重視されていることについて話がありました。また、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの現状、官民連携や施設の複合化による地域活性化についても御示唆がありました。</p>		
社会教育基礎A	愛知県の社会教育の推進に向けて	
行政説明Ⅱ	愛知県教育委員会あいちの学び推進課	
<p>愛知県教育委員会あいちの学び推進課に所属する3人の社会教育主事が、愛知県の社会教育に関する施策について説明を行いました。愛知県が行っている社会教育施策の概略説明、社会教育主事の設置状況と今後の役割、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進の進捗状況と今後の展望、家庭教育支援の一層の充実など、愛知県の社会教育を推進するための具体的な取組について説明をしました。</p>		
公民館基礎A	公民館に地域の“いま”を実装する	
講義Ⅰ	長崎市北公民館 館長 出口 亮太 氏	
<p>長崎市北公民館で進めてこられた事例を通じて、地域の公共施設が果たすべき役割と可能性について御講義いただきました。公民館をとおして「人・つながり・地域づくり」を進めていくことをミッションとし、固定化・高齢化などの課題に対し、講座を刷新したり、広報を工夫したり、webの活用で潜在層に働きかけたりすることの必要性をお話しいただきました。特に「冬のオムニバス講座」では、地域の“いま”を反映した企画により新規層の開拓と講師の育成を実現し、地域コミュニティのハブを意識した運営の必要性を学ぶことができました。</p>		
第2日目	施策の方向性と理解・公民館の講座運営と公民館が果たす役割	
社会教育基礎B	社会教育の歴史と視点	
講義Ⅱ	岐阜大学地域連携推進本部地域協学センター 助教 二村 玲衣 氏	
<p>初めに「学校だけでも家庭だけでもない、複数人で行う教育的営みの場である」と定義づけられる社会教育と学校教育・家庭教育の関係について話がありました。そして、日本における社会教育行政の戦前から戦後の歴史を紐解いていくと、戦中は国民を戦争に適応させ、地域の相互監視を実現する手段にしていたが、戦後には手段とせず、公民館を拠点にして、国民の民主化の実現を重視するように変化したことを知ることができました。最後に、公民館の利用が減少している現在、「間口の広さを生かすことで、新たな存在価値を生み出せるのでは」との御示唆がありました。</p>		
公民館基礎B	参加者が主体的に参加できるための工夫やコツ	
講義Ⅲ・演習Ⅰ	ファシリテーターのいる私設公民館 Wellcome 代表 泉森 奈央 氏	
<p>会議やイベントなどで、参加者一人一人が主体性と力を発揮できる場をつくるために、公民館職員やリーダーのファシリテーション力を向上させることが求められています。そこで、どのようなポイントを大切にし、技術を身に付けるとよいのか、演習を交えながら御講義いただきました。参加者を主体的にするためには、安心安全な場や誰もが参加できるような雰囲気づくり、日頃からの声掛けなどが大切で、参加者と一緒にになって、目的へと進んでいく気持ちが大事であることを知ることができました。受講者同士の話も弾み、和気あいあいとした雰囲気で学ぶことができました。</p>		

第3日目	公民館の役割の理解とコミュニティの構築・社会教育行政と社会教育委員が果たす役割
社会教育応用A	社会教育行政と社会教育委員が果たす役割
講義IV	東海大学資格教育センター 准教授 古里 貴士 氏
	<p>多様な人々が暮らしているのに、「一般的」「当たり前」から外れてはいけないという風潮により、地域に住む人たちが声を出しにくくなっている状況から、多様性を尊重し、認め合えるような環境を醸成していくことが重要であり、それを担うのが社会教育委員の役割であると教えていただきました。また、伊勢原市社会教育委員会議で議長を務められている御経験をもとに、「育ちあえる地域コミュニティーをどうつくっていくか」をテーマに提言書をまとめるまでの取組についてお話しいただき、具体的な事例を踏まえながら御示唆をいただきました。</p> 
公民館応用A	震災における公民館の動きと課題
講義V	能登町教育委員会事務局 主査兼社会教育主事 寺口 学 氏
	<p>令和6年の元旦に発生した「能登半島地震」の被害状況やその時に避難場所となつた公民館の現状、復興に向けての取組等について、当時の資料を提示していただきながら御講義いただきました。その中から、公民館は、地域のプラットホームとなる拠点であり、災害時は地域住民のニーズを吸収し、行政へと働きかけるハブの役割や住民同士のつながりや健康、文化を守る役割があることを踏まえて活動することが大切だと御示唆をいただきました。近年は「災害は忘れないうちにやってくる」状況にあることから、地域の防災や減災対策について自分事として考える機会となりました。</p> 
第4日目	公民館の役割の理解とコミュニティの構築・社会教育行政と社会教育委員が果たす役割
公民館応用B	全国公民館セミナーに参加して
報告	瀧上工業雁宿ホール 鰐部 亮太 氏
	<p>「ツナガルシクミをみんなでつくる」をテーマに実施された、第36回全国公民館セミナーの内容を報告していただきました。シンポジウムでは、俯瞰と創造性を重視した事業設計による多様な事例の紹介があり、ワークショップでは、「何をするか」より「何のためにするか」を重視した地域づくりが大切であることが確認されたとのことでした。そして、事例発表では、講座の刷新や市民主体の企画をとおして、つながりを広げる工夫が示されました。報告をとおして、既存の事業の問い合わせと、目指すべき地域の在り方を具体化することが必要であることを学ぶことができました。</p> 
公民館応用B	優良公民館表彰 事例発表
事例発表	犬山市南部公民館 柴田 沙恵 氏
	<p>昨年度、文部科学省より優良公民館表彰を受けた、犬山市南部公民館の取組について発表していただきました。年間約5万人が利用する地域拠点で、通常の貸館業務や講座に加え、令和4年度から文部科学省事業を活用し、障害者と健常者が共に学ぶ「特別講座」で染め物、羊毛フェルト、タブレットお絵描きなどを実施し、誰もが参加しやすい仕組みづくりを推進しているとのことでした。また、障害者教育連携協議会と連携するなどの体制強化も図っているとのことです。誰一人取り残すことなく、全ての人がともに学ぶ機会を実現させることの大切さを知る機会となりました。</p> 
社会教育応用B	地域コミュニティの創生に果たす公民館との協働
講義VI・演習II	地球っ子クラブ2000 代表 高柳 なな枝 氏
	<p>地域に外国人の家庭が増えている中、埼玉県さいたま市で公民館と協働しながら、日本語を母語としない子供やその保護者を対象に活動をしている地球っ子クラブ2000の取組について話がありました。他国の言語を修得することは難しく、普段私たちが使っている日本語の言い回しは、外国人にとっては分かり辛いことを知り、演習をして、例文を「やさしい日本語」に変換してみる取組を行いました。そして、外国人も一緒に地域を創り上げていく仲間として、相互理解やつながりづくりを進めるとともに、対等な関係性を確立していくことが重要であることを学ぶことができました。</p> 

第5日目		生涯学習社会の実現に向けて
公民館・社会教育発展A	学校・地域そして行政がつながる ~国際交流協会の活動を通して~	
講義VII	岩倉市社会教育委員の会議 委員長 内藤 和子 氏	
<p>「岩倉市国際交流協会」の取組について紹介していただきました。30年に渡り、行政主導ではなく、市民による運営・多世代での活動・グローバルな視点をもった実践を大切にしながら、中学生のホームステイや留学生の支援・交流を続けてきたことにより、時を経てそのつながりが広がったり、深いものへと変わったりしたと話をされていました。そして、行政に対して言語が違うからだと後回しにするのではなく、ここで対話することが大切であることを提言したというエピソードから、同じ地球上に生きる人間として、平等に接することが重要であることを学ぶことができました。</p>		
公民館・社会教育発展B	転換期にある地域社会と社会教育の未来	
講義VIII	岐阜大学副学長補佐 地域連携推進本部地域協学センター長・教授 益川 浩一 氏	
<p>日本の地域社会の変容とそれに伴う社会教育の在り方、近年の動向について御講義いただきました。その中で、事例を挙げながら、社会教育が「人々の生きがいづくり」「人と人との絆の構築」において、重要な役割を担っていることを教えていただきました。そして、学びをとおした共同体験や共有体験が結びつきを創り上げるとともに、安心感や信頼感を生み出すことから、地域の中に人間関係が蓄えられるることを知ることができました。また世界では、公民館での学びが注目されているとのことで、自信をもって実践を続けていくことが大切であるとの御示唆をいただきました。</p>		